

| | | | |
|-----------|--|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1年 前期 | | |
| 科目名 | 航空法規 (座学・専門科目) | | |
| 担当教員 | 実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 44 | 授業方法 | 講義 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年 | | |
| 到達目標 | 航空機の整備従事者に必要な法規則等について知識を習得し、航空従事者学科試験「法規」合格を目指す。 | | |
| 授業計画 | 航空機の整備従事者に必要な法規則等について航空関係法規及びヒューマンファクターについて授業を実施 | | |
| テキスト | 新航空法規解説(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行) | | |
| 試験／成績評価方法 | 学期末試験による評価(教育規定、教育基準に定めるとおり) | | |
| その他 | 80%以上の出席および補習による100%履修が必要 | | |

| | | | |
|---------------|---|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1年 前期 | | |
| 科目名 | 航空力学 (座学・専門科目) | | |
| 担当教員 | 実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 44 | 授業方法 | 講義 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年 | | |
| 到達目標 | 航空機に作用する力や航空機の運動及び性能等について、空気力学を中心に考えその知識を習得する。 航空経歴認定のため 学期末試験にて70点以上取得を目指す。 また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。 | | |
| 授業計画 | 航空機に作用する力や航空機の運動及び性能等について、空気力学を中心に考えその知識を教授する。 | | |
| テキスト | 航空工学講座「航空力学」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行) | | |
| 試験／成績 評価方法 | 学期末試験による評価(教育規定、教育基準に定めるとおり) | | |
| その他 | 80%以上の出席および補習による100%履修が必要 | | |

| | | | |
|-----------|---|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1年 前期 | | |
| 科目名 | 機体システム (座学・専門科目) | | |
| 担当教員 | 実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 28 | 授業方法 | 講義 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年 | | |
| 到達目標 | 航空機に用いられる各種システムの機能や取扱い等の知識を習得する。 航空経歴認定のため 学期末試験にて70点以上取得を目指す。 また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。 | | |
| 授業計画 | 航空機に用いられる各種システムについて、その機能や取扱い等の知識を教授する。 | | |
| テキスト | 航空工学講座「航空機システム」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行) | | |
| 試験／成績評価方法 | 学期末試験による評価(教育規定、教育基準に定めるとおり) | | |
| その他 | 80%以上の出席および補習による100%履修が必要 | | |

| | | | |
|-----------|--|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1年 前期 | | |
| 科目名 | 機体構造 (座学・専門科目) | | |
| 担当教員 | 実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 36 | 授業方法 | 講義 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年 | | |
| 到達目標 | 航空機の構造について、その設計の意図、特徴、取扱い等の知識を習得する。航空経歴認定のため 学期末試験にて70点以上取得を目指す。また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。 | | |
| 授業計画 | 航空機の構造について、その設計の意図、特徴、取扱い等の知識を教授する。 | | |
| テキスト | 航空工学講座「飛行機構造」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行) | | |
| 試験／成績評価方法 | 学期末試験による評価(教育規定、教育基準に定めるとおり) | | |
| その他 | 80%以上の出席および補習による100%履修が必要 | | |

| | | | |
|---------------|---|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1年 前期 | | |
| 科目名 | 航空機材料 (座学・専門科目) | | |
| 担当教員 | 実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 28 | 授業方法 | 講義 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年 | | |
| 到達目標 | 航空機に使用される各種材料の性質や取扱い等の知識を習得する。 航空経歴認定のため 学期末試験にて70点以上取得を目指す。 また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。 | | |
| 授業計画 | 航空機に使用される各種材料について、その性質や取扱い等の知識を教授する。 | | |
| テキスト | 航空工学講座「航空機材料」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行) | | |
| 試験／成績 評価方法 | 学期末試験による評価(教育規定、教育基準に定めるとおり) | | |
| その他 | 80%以上の出席および補習による100%履修が必要 | | |

| | | | |
|---------------|--|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1年 前期 | | |
| 科目名 | 航空計器 (座学・専門科目) | | |
| 担当教員 | 実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 36 | 授業方法 | 講義 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年 | | |
| 到達目標 | 航空機に装備される各種計器の構造、機能等の知識を習得する。 航空経歴認定のため 学期末試験にて70点以上取得を目指す。 また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。 | | |
| 授業計画 | 航空機に装備される各種計器の構造、機能等についての知識を教授する。 | | |
| テキスト | 航空工学講座「航空計器」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行) | | |
| 試験／成績 評価方法 | 学期末試験による評価(教育規定、教育基準に定めるとおり) | | |
| その他 | 80%以上の出席および補習による100%履修が必要 | | |

| | | | |
|-----------|---|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1年 前期・後期 | | |
| 科目名 | 電子装備品等 (座学・専門科目) | | |
| 担当教員 | 実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 68 | 授業方法 | 講義 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年 | | |
| 到達目標 | 航空機に装備される各種電子・電気機器の構造、機能等の知識を習得する。 航空経歴認定のため 学期末試験にて70点以上取得を目指す。 また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。 | | |
| 授業計画 | 航空機に装備される各種電子・電気機器の構造、機能等についての知識を教授する。 | | |
| テキスト | 航空工学講座「航空電子・電気の基礎」、「航空電子・電気装備」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行) | | |
| 試験／成績評価方法 | 学期末試験による評価(教育規定、教育基準に定めるとおり) | | |
| その他 | 80%以上の出席および補習による100%履修が必要 | | |

| | | | |
|-----------|---|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1年 前期・後期 | | |
| 科目名 | 発動機ピストン (座学・専門科目) | | |
| 担当教員 | 実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 96 | 授業方法 | 講義 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年 | | |
| 到達目標 | 航空機に装備されるピストン発動機の構造、機能、性能等についての知識を習得する。航空経歴認定のため 学期末試験にて70点以上取得を目指す。また、航空従事者学科試験「発動機」科目設問内容を理解し、合格を目指す。 | | |
| 授業計画 | 航空機に装備されるピストン発動機について、その構造、機能、性能等についての知識を教授する。 | | |
| テキスト | 航空工学講座「ピストン・エンジン」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行) | | |
| 試験／成績評価方法 | 学期末試験による評価(教育規定、教育基準に定めるとおり) | | |
| その他 | 80%以上の出席および補習による100%履修が必要 | | |

| | | | |
|---------------|---|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1年 前期 | | |
| 科目名 | 発動機プロペラ (座学・専門科目) | | |
| 担当教員 | 実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 24 | 授業方法 | 講義 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年 | | |
| 到達目標 | 航空機に装備されるプロペラの構造、機能、取扱い等についての知識を習得する。航空経歴認定のため 学期末試験にて70点以上取得を目指す。また、航空従事者学科試験「発動機」科目設問内容を理解し、合格を目指す。 | | |
| 授業計画 | 航空機に装備されるプロペラについて、その構造、機能、取扱い等についての知識を教授する。 | | |
| テキスト | 航空工学講座「プロペラ」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行) | | |
| 試験／成績 評価方法 | 学期末試験による評価(教育規定、教育基準に定めるとおり) | | |
| その他 | 80%以上の出席および補習による100%履修が必要 | | |

| | | | |
|-----------|---|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1・2年 前期・後期 | | |
| 科目名 | 基本技術(学科) (座学・専門科目) | | |
| 担当教員 | 実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 288 | 授業方法 | 講義 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年、2年 | | |
| 到達目標 | 航空機の整備、取扱いに必要な「基本的整備技術」の知識の習得を目標とする。 航空経歴認定のため 学期末試験にて70点以上取得を目指す。 | | |
| 授業計画 | 航空機の整備、取扱いに必要な「基本的整備技術」についての知識を教授する。 | | |
| テキスト | 「航空機の基本技術」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行) | | |
| 試験／成績評価方法 | 学期末試験による評価(教育規定、教育基準に定めるとおり) | | |
| その他 | 80%以上の出席および補習による100%履修が必要 | | |

| | | | |
|---------------|--|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1年・2年 前期・後期 | | |
| 科目名 | 基本技術(実技) (専門科目) | | |
| 担当教員 | 実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 252 | 授業方法 | 実習 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年、2年 | | |
| 到達目標 | 航空機の整備、取扱いに必要な「基本的整備技術」の知識、技能の習得。 航空経歴認定のため 学期末試験にて70点以上取得を目指す。 | | |
| 授業計画 | 航空機の整備、取扱いに必要な「基本的整備技術」についての知識、技能を教授する。 | | |
| テキスト | 「航空機の基本技術」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行) | | |
| 試験／成績 評価方法 | 学期末試験による評価および作品評価(教育規定、教育基準に定めるとおり) | | |
| その他 | 80%以上の出席および補習による100%履修が必要 | | |

| | | | |
|-----------|---|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 前期(2年)・後期(1、2年) | | |
| 科目名 | 機体(実技) (専門科目) | | |
| 担当教員 | 実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 194 | 授業方法 | 実習 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年、2年 | | |
| 到達目標 | 特定の航空機を対象に、その構造、系統、装備品等並びに航空機全般にわたる取扱要領や整備要領を実践的に習得。知識と実技を総合的に深める。航空経歴認定のため 学期末試験にて70点以上取得を目指す。 | | |
| 授業計画 | 特定の航空機を対象に、その構造、系統、装備品等並びに航空機全般にわたる取扱要領や整備要領を実践的に教授し、知識と実技を総合的に深める。 | | |
| テキスト | 教材となる飛行機の「サービスマニュアル」(飛行機メーカー) | | |
| 試験／成績評価方法 | 学期末試験による評価(教育規定、教育基準に定めるとおり) | | |
| その他 | 80%以上の出席および補習による100%履修が必要 | | |

| | | | |
|-----------|--|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1年前期・後期、2年前期 | | |
| 科目名 | 発動機ピストン(実技) (専門科目) | | |
| 担当教員 | 実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 108 | 授業方法 | 実習 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年、2年 | | |
| 到達目標 | 特定の発動機を対象に、全般にわたる構造、機能、性能、取扱要領や整備要領を実践的に習得。知識と実技を総合的に深める。 航空経歴認定のため 学期末試験にて70点以上取得を目指す。 | | |
| 授業計画 | 特定の発動機を対象に、全般にわたる構造、機能、性能、取扱要領、整備要領等を実践的に教授し、知識と実技を総合的に深める。 | | |
| テキスト | 教材となる発動機の「メンテナンスマニュアル」(発動機メーカー)及び、トレーニング・マニュアル(学校作成) | | |
| 試験／成績評価方法 | 学期末試験による評価(教育規定、教育基準に定めるとおり) | | |
| その他 | 80%以上の出席および補習による100%履修が必要 | | |

| | | | |
|-----------|---|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1年後期、2年前期・後期 | | |
| 科目名 | 電子装備品(実技) (専門科目) | | |
| 担当教員 | 実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 124 | 授業方法 | 実習 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年、2年 | | |
| 到達目標 | 特定の航空機に装備される電子・電気装備品を対象に、その取扱要領や整備要領を実践的に習得。知識と実技を総合的に深める。 航空経歴認定のため 学期末試験にて70点以上取得を目指す。 | | |
| 授業計画 | 特定の航空機に装備される電子・電気装備品を対象に、その取扱要領や整備要領等を実践的に教授し、知識と実技を総合的に深める。 | | |
| テキスト | 「航空機の基本技術」「航空電子・電気装備品」(日本航空技術協会 刊行) | | |
| 試験／成績評価方法 | 学期末試験による評価(教育規定、教育基準に定めるとおり) | | |
| その他 | 80%以上の出席および補習による100%履修が必要 | | |

| | | | |
|-----------|---|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 2年 前期・後期 | | |
| 科目名 | 整備に必要な技術(実技・専門科目) | | |
| 担当教員 | 実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 128 | 授業方法 | 実習 |
| 対象学年 | 航空整備士学科2年 | | |
| 到達目標 | 特定の航空機全般を対象に、その取扱要領や整備要領を実践的に習得。 知識と実技を総合的に深める。 航空経歴認定のため 学期末試験にて70点以上取得を目指す。 | | |
| 授業計画 | 特定の航空機全般を対象に、その取扱要領や整備要領等を実践的に教授し、知識と実技を総合的に深める。 | | |
| テキスト | 整備技術資料(学科作成)、「航空機の基本技術」(日本航空技術協会 刊行) 耐空性審査要領、サーキュラー集(航空局安全部) | | |
| 試験／成績評価方法 | 学期末試験による評価(教育規定、教育基準に定めるとおり) | | |
| その他 | 80%以上の出席および補習による100%履修が必要 | | |

| | | | |
|-----------|---|------|-------|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1・2年 前期・後期 | | |
| 科目名 | 英語（一般科目） | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 84 | 授業方法 | 講義・演習 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年、2年 | | |
| 到達目標 | <p>基礎的な文法や英語特有の文章構成を十分理解し、問題に慣れていくことを目的とする。</p> <p>読解、聴解のコツを活用し、短時間で問題に対応できることを目指し、合格及びスコアUPにつなげる。</p> <p>中級語彙およびレベルに適した文法力を適用し、自分の意見を客観的に論理的に伝えるスキルを身につける。</p> | | |
| 授業計画 | <p>1年次:(レベル別に授業を実施)</p> <p>①各級に分かれた英検対策。</p> <p>②TOEIC及びTOEIC Bridge対策。</p> <p>③読解力・思考力育成。</p> <p>2年次:(レベル別に授業を実施)</p> <p>①各級に分かれた英検対策。</p> <p>②TOEIC及びTOEIC Bridge対策。</p> <p>③英語読解スキルを育成。論理的・客観的英文表現。</p> <p>④思考力育成。</p> | | |
| テキスト | TOEIC対策テキスト、単語テキスト、英検準2級対策テキスト、準2単語テキスト、英検3級対策テキスト、3級単語テキスト(各出版社刊行版) | | |
| 試験／成績評価方法 | 学期末試験による点数及び平常点(授業態度などの評価)の総合評価 | | |
| その他 | 70%以上の出席および学期末試験で60点以上が必要 | | |

| | | | |
|---------------|--|------|-------|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1年後期・2年前期 | | |
| 科目名 | 一般常識(SPI) (一般科目) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 56 | 授業方法 | 講義・演習 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年、2年 | | |
| 到達目標 | 基礎的な学力の向上及び企業が行う入社テストに対応した知識を習得。 SPIテキストの演習によりSPI形式の試験に対応する力を身につける。 | | |
| 授業計画 | 基礎的な学力の向上及び企業が行う入社テストに対応した知識を教授する。 | | |
| テキスト | SPI 3テキスト(出版社刊行版) | | |
| 試験／成績 評価方法 | 学期末試験による評価 | | |
| その他 | 70%以上の出席および学期末試験で60点以上が必要 | | |

| | | | |
|---------------|--|------|-------|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 2年 後期 | | |
| 科目名 | IT基礎 (一般科目) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 28 | 授業方法 | 講義・演習 |
| 対象学年 | 航空整備士学科2年 | | |
| 到達目標 | Microsoft Office機能を使いこなすために必要な知識を習得。 | | |
| 授業計画 | Microsoft Office機能を使いこなすために必要な知識を教授する。 | | |
| テキスト | 講師作成のテキスト | | |
| 試験／成績 評価方法 | 課題作成、小テストによる総合評価 | | |
| その他 | パソコンを使用しながら実践的に教授。 70%以上の出席が必要 | | |

| | | | |
|---------------|--|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1年後期、2年前期・後期 | | |
| 科目名 | 受験対策 (一般科目) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 92 | 授業方法 | 講義 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年、2年 | | |
| 到達目標 | 各種資格試験に合格するために必要な知識を習得。 | | |
| 授業計画 | 各種資格試験に合格するために必要な知識を教授する。 | | |
| テキスト | 当該国家資格等に必要なテキスト等 (航空従事者学科試験問題集、危険物取扱者テキスト等) | | |
| 試験／成績 評価方法 | 小テストによる評価 | | |
| その他 | | | |

| | | | |
|---------------|---------------------------------------|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1・2年 前期・後期 | | |
| 科目名 | 就職対策 (一般科目) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 84 | 授業方法 | 演習 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年、2年 | | |
| 到達目標 | 社会人として必要なマナー、文書の作成、面接要領等について必要な知識を習得。 | | |
| 授業計画 | 社会人として必要なマナー、文書の作成、面接要領等について教授する。 | | |
| テキスト | 一般出版社刊行のマナー本、前年度以前の受験報告資料 | | |
| 試験／成績 評価方法 | 課題提出、実面接による評価 | | |
| その他 | | | |

| | | | |
|---------------|--|------|----|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1年後期・2年前期 | | |
| 科目名 | 安全・品質 (一般科目) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 28 | 授業方法 | 講義 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年、2年 | | |
| 到達目標 | 健康管理、事故防止を考えながら安全衛生と品質管理の重要性について必要な知識を習得。 | | |
| 授業計画 | 健康管理、事故防止を考えながら安全衛生と品質管理の重要性について教授する。 品質保証講習授業(1年次)と品質・安全授業(2年次)により実施 | | |
| テキスト | 学校作成の安全・品質テキスト/品質保証テキスト | | |
| 試験／成績 評価方法 | 受講レポート及び小テスト | | |
| その他 | | | |

| | | | |
|---------------|--|------|-------|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1・2年前期・後期 | | |
| 科目名 | 課外授業 (一般科目) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 70 | 授業方法 | 講義・実習 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年、2年 | | |
| 到達目標 | 学校、社会のルールを認識し、協調性、自主性、連帯意識を養うなど 普通の授業で得にくいものを得る | | |
| 授業計画 | オリエンテーション、球技大会、学園祭等、学生として参加が求められている 各種学校行事 | | |
| テキスト | 各行事資料 | | |
| 試験／成績 評価方法 | 出席確認による(評価は無し) | | |
| その他 | | | |

| | | | |
|---------------|---|------|-------|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1・2年 前期・後期 | | |
| 科目名 | 総合一般 (一般科目) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 104 | 授業方法 | 講義・実習 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年、2年 | | |
| 到達目標 | 1年次は、専門科目授業を中心に、授業で理解できなかった部分をレビューし、積み残し無しで次のステップ(授業)に望めるようにする。2年次はこれに加え、就職先で必要とされる基礎知識のうち、専門科目で網羅されていない大型航空機の概要や航空英語などを習得する。 | | |
| 授業計画 | 1年次は、授業で理解できなかった部分をレビューし解説を行い、積み残し無しで次のステップ(授業)に望めるように教授する。2年次はこれに加え、就職先で必要とされる基礎知識のうち、専門科目で網羅されていない大型航空機の概要や航空英語などを教授する。 | | |
| テキスト | 各教科テキスト | | |
| 試験／成績 評価方法 | 出席確認による(評価は無し) | | |
| その他 | | | |

| | | | |
|-----------|--|------|-------|
| 開講年度 | 2024 | | |
| 開講学期 | 1年後期、2年前期・後期 | | |
| 科目名 | 総合タービン強化 (一般科目) | | |
| 必須選択 | 必須 | | |
| 授業時数 | 112 | 授業方法 | 講義・実習 |
| 対象学年 | 航空整備士学科1年、2年 | | |
| 到達目標 | タービン・エンジンの構造、機能、性能など基礎知識の習得及び実習による整備技能の習得を目指す。 | | |
| 授業計画 | 1年次は、基礎的なタービン・エンジンの構造、機能、性能を講義、実習で教授する。2年次はこれに加え、パーツカタログの使用など、より実践的な取り扱いを教授する。 | | |
| テキスト | 各教材エンジンのマニュアル(メンテナンス・マニュアル、イラストレーテッド・パーツ・カタログ)ほか | | |
| 試験／成績評価方法 | 学期末試験(記述及び実技)による評価 | | |
| その他 | | | |